第７日

令和６年12月11日（水）

午前10時零分開議

**○議長（小島清人君）**　皆様、おはようございます。

これより本日の会議を開きます。

なお、本日の出席議員は17名で、会議は成立いたします。

議事日程表をお開きください。本日の議事日程については、タブレットに掲載のとおりであります。御了承願います。

一般質問通告書をお開きください。

それでは、日程に従い、10日に引き続き一般質問を行います。

それでは、16番実藤輝夫議員の質問を許可します。

（16番実藤輝夫君登壇）

**○16番（実藤輝夫君）**　皆さん、おはようございます。16番の実藤輝夫でございます。

昨日に引き続き一般質問を行いますが、昨日、２名の議員の方から上杉鷹山の話が出てまいりました。私も上杉鷹山、三名君の一人でありますし、将来、米沢との姉妹都市という形で、ぜひ皆さん方にも知っていただきたい逸話がありますので、それを今日の一般質問に絡めながら、皆さん方と市長以下執行部、教育委員会と語り合っていきたいと考えております。

上杉鷹山というのは、もう非常に、日本全国で知らない人はいないわけですけれども、この人が日本で一躍有名になったのは、ケネディ大統領との出会い。本人が会ったわけではありませんけれども、ケネディ大統領が在任中、日本人記者から、「あなたの日本での尊敬する人は誰ですか」と問われまして、即座に「上杉鷹山」と答えた。そのとき問うた日本人記者は、「上杉鷹山って誰だ」って、「よく知らない」ということになりまして、後で調べたところ、偉大なる改革をした上杉の藩主であると、そういうことが分かってまいりました。

時より1960年代、日本も経済復興を成し遂げていかなければならない時期にありましたので、経済界も含めて、上杉鷹山の経営学というものを学んでまいりました。

このケネディがなぜ、上杉鷹山という人の名前を即座に挙げたか。これには幾つかの説がありますが、明治、大正、昭和を通じてキリスト教の神学者でありました、内村鑑三という人が、「代表的日本人」という本を英語で出版されたために、欧米でこれが愛読されたそうです。ケネディは読書家でありまして、暇さえあれば本を読んでいたと。恐らくこの内村鑑三が表した「代表的日本人」という本の中に、５名の著名人がありました。一人は西郷隆盛、二宮尊徳、中江藤樹、日蓮、そして上杉鷹山でありました。

この上杉鷹山を、なぜケネディが即座に、日本的代表としての尊敬する人として挙げたか。これが今日の私の一般質問の主題であります。

御存じのとおり、ケネディは大統領就任のときに、有名な「国家が国民に何をなしてくれるかを問うことなく、国民が国に対して何ができるかを問うてほしい」。このような演説をいたしました。

まさに、上杉鷹山が米沢に養子として、藩主として入ったときに一番最初になしたのが、意識改革であります。御承知のとおり、上杉家は、もはや、にっちもさっちもいかなくなるような財政難に陥りまして、藩を幕府に返上する一歩手前まで、そのとき、上杉鷹山が養子として入ってまいりました。

彼は幾つかのことを成し遂げていくわけですけれども、そのときの一つが、藩主、藩民の意識改革、これなくしては、米沢藩の再興はなし得ないと、ここから取り組んでまいりました。

今、市長以下、行政に携わる人たちの意識改革、そして議会議員、そして地域にリーダーとして職なされている方々の意識、そしてまた、私たち市民一人一人の意識が改革されることによって、この朝倉市を、地域浮揚そしてまた住民の安寧につながっていくと、このように確信しております。

上杉鷹山がなした２番目は、どうやって藩制を立て直すか、財政改革であります。数十万両と言われる財政難に陥っていた米沢藩を、一つとして殖産興業、漆、桑、楮、紅花、そして、昨日も少し出ておりましたが、鯉の養殖。いろいろな面で、その付加価値をつけることによって、流通機構まで米沢で行う。そういった改革をなしてまいりました。

３番目には、時代を担う人材育成であります。

御承知のとおり、米沢藩は興譲館、高鍋は明倫堂、そして、我が秋月は稽古館。藩校を設立することによって、特筆すべきは、藩士だけではなくて、有能な意欲のある町民、百姓もその藩校に入れて教育をした。

４番目には、後に「伝国の辞」と言われる、鷹山が引退し、次の藩主、治広に受け継がせるときに申し送った伝国の辞にあります、「藩は、藩主のためにあるのではなく、藩民のために存する。藩民の富なくして、藩主はあり得ない」。この愛民の思想によって、いろいろな福祉、その他の施策を行ってまいりました。

そうした関係を、ケネディは内村鑑三の本によって知り得、「自分もそれを実践していきたい」、このように考えたものだと推測しております。

もちろん三名君、高鍋の種茂、米沢の鷹山、そして、我が秋月の長舒。皆さん御承知のとおり、兄弟であり親子であり、おじ、おいの仲であります。お互いが切磋琢磨し、そして、同じような改革をしております。

一応、鷹山が一番有名になりましたので、身近に習得するためには鷹山の本を、あるいは話を聞くのが一番手っ取り早いわけですけれども、今日は私が通告しております中身については、そのような趣旨を踏まえて一般質問を行いたいと思っております。

以下、質問席において質問を続行してまいりますので、市長、教育長以下、執行部の

方々は明確なる御回答をよろしくお願いいたします。

（16番実藤輝夫君降壇）

**○議長（小島清人君）**　16番実藤輝夫議員。

**○16番（実藤輝夫君）**　通告を（１）（２）（３）しておりますけれども、時間の関係で、（３）財政の見通しが飛ぶような感じがいたしますので、簡単に。これは、やるかやらないかっていうことなんで。

市長、先般から、財政の見通し計画をつくっていくというような話が総務部長からも出ておりましたが、いろいろな施策、昨日からも行われておりますし、朝倉市が抱えている問題に対しても、財源の確保、収支バランス、そういったものは必要であります。

まず最初に、時間があれば最後に回して、また行いたいと思いますけれども。来年以降、ぜひとも財政の見通し計画をつくっていただきたいというふうに考えておりますので、やるかやらないか、どうするかっていう形だけ御答弁いただきたいと思います。

**○議長（小島清人君）**　市長。

**○市長（林　裕二君）**　年が明けまして、今年度中につくるということで考えております。

**○議長（小島清人君）**　16番実藤議員。

**○16番（実藤輝夫君）**　ぜひ、それに基づいて、今後の朝倉市の大きな政策が決定されていくというふうに思いますので、ぜひともよろしくお願いいたします。

２番目に書いております、「日本創生から地域創生へ」って書いております。

これ、「地方」と書かなくて「地域」と書いた意味があるわけですね。これが総論で、（１）のほうが一応、各論になりますので、（２）番と（１）番を併せながらという形で質問していきたいと考えております。よろしいですか。

先ほど述べましたように、上杉鷹山を含めて三名君フォーラムも先般行われました。昨年から秋月藩成立400年祭を通じて、教育委員会、観光課、その他執行部のほうもいろいろ携わっておられます。

こうした中で、三名君フォーラムもありましたし、盛岡では藩校サミットもあったという中で、市長、非常にそういった雰囲気、ムードができておりますが。この間、市長はいろいろお考えになっておると思いますけれども、まず最初に、今、考える思いを述べていただきたいと思います。

**○議長（小島清人君）**　市長。

**○市長（林　裕二君）**　地方創生ということが、今、朝倉市にとっては非常に大切であるということで、移住定住の拠点をつくったり、オートキャンプ場を造ったり、そうしながら朝倉市の人口の安定ということを図ってきたところであります。

議員が言われますように、地域創生という言葉が最近言われるようになってまいりましたので、ちょっといろいろ調べまして、いわゆる地方創生ということに対しては、東京一極集中に対して地方が元気になると。そのために国もいろいろやりましたし、地方の都道

府県とは別にして、県レベル、市町村もそれに取り組んできたということかと思います。

ただ、こういう時代になりましたので、もうちょっと細かく地域創生ということに視点が移ってきているということだと思います。地域創生になりますと、もうちょっと狭い範囲で、例えば福岡県の中で、我々が住んでいる朝倉市、朝倉市の中でもそれぞれ特徴がありますから、それぞれに特色を生かして、そして地域を元気にしていくと、そんなふうに考えている次第であります。

**○議長（小島清人君）**　16番実藤議員。

**○16番（実藤輝夫君）**　昨年から秋月藩成立400年祭ということで、教育委員会、先ほど申しましたように、いろいろ施策がなされております。

そこに今、地域創生という、「地域」という言葉を使いながら創生をしていかなきゃならん。なぜそこに絡んでくるのかというと、やはり、歴史の豊かなこの朝倉市の中で、400年という秋月藩成立の偉大なるこの財産を、どうやって浮揚させていくか。市民に、そしてまた市外の人たちにも知らせていくかということが、大きな課題として、今、種々、取り組まれております。

しかしながら、一方で、かなりの経費と活動がなされる割には、杷木から蜷城、上秋月まで広い朝倉市の中で、どれほど市民がこれに関心を持って、これに賛同しているか。私が知る限りにおきましては、やっぱり、一部の人たちとの盛り上がりに過ぎないという面もあると。

そういう形を持ちまして、私も議会の中で、「朝倉の歴史に学ぶ議員の会」っていうのを提言しまして、議長の賛同を得まして、皆さん方とやろうという形になり、なかなか実動できませんので、教育委員会とも提携しながら。

それは、朝倉市の歴史は、秋月がもちろん私たちの宝でありますが、それだけではなくて、地域地域にはそれぞれの歴史があり、私たちが誇るべくものがたくさんあるということを知っていただきたいということを、私は念じて、この活動をしておるところであります。

地域創生はいろんな方法があります。しかし、ちょうどこの400年祭という、去年から今年、そして、三名君のフォーラム、来年は藩校サミット。そして、一つの目標であります、市町姉妹都市。これに向けて私は、できるだけ多くの市民がこれに賛同してくれる方法はないのか。私も過去の経験から、姉妹都市を結んで、必ずしも市民から、もろ手を挙げて賛成したというのは少ない。やっぱり、一部の人が、「何で姉妹都市を結ぶのか。自分たちだけの、一部の人間だけじゃないか」。私は、高鍋と、そしてまた米沢との姉妹都市は大賛成です。これは言っておきます。

しかし、大賛成ですけれども、やはり市民の理解と協力、賛同がなければ、絵に描いた餅といいますか、一部の人たちとの盛り上がりしかないと。やはり、地域創生をしていく一つの手段として、郷土史を掘り起こし、地域の発展、住民の誇りを取り戻し、新しい改

革を地域で起こしてほしいと、この願いで今、取り組んでいるところであります。

市長、これ、私たちの市の行政のほうも非常に賛同していただいておりますが、教育委員会はもちろんのことですけども。その点について、どのようにお考えですか。

**○議長（小島清人君）**　市長。

**○市長（林　裕二君）**　議員の会をつくっていって、郷土の勉強会ということを、既に２回されていまして、今年度にはあと２回予定をされているということでございます。

まさしく議員が言われたように、秋月は400年だと、この機会は逃したらいけないということで、昨年度、そして今年、いろんな事業に取り組んでまいりました。そして、来年は藩校サミットということを控えておりまして、盛り上がりが市内全体に及んでほしいという願いを持って始めてきましたし、これから先、来年に向けて、ぜひ必要なことであります。

米沢と朝倉を、姉妹締結をするということについては、米沢市のほうも、やっぱり米沢の住民の盛り上がりといったことを考えておられます。

そういったことを考えますと、まさしく今、議員の会で取り組んであります歴史講座、これについては、それぞれの地域の歴史を掘り起こして、今じゃないとできないというのもあるでしょう。できる人が今いるうちにそれをやっていただいて、そして、市内全体がそれぞれ、自分のところの郷土に誇りを持って、歴史を知ってということは極めて大事な面が幾つもありますので、ぜひ、これについては、やっていただきたいと。

４回目は、私はスケジュールがどうも空きそうなんで、杷木の大膳のところには、円清寺には行きたいというふうに思っている次第であります。

**○議長（小島清人君）**　16番実藤議員。

**○16番（実藤輝夫君）**　少しでもお役に立てればと思ってやっておるわけですが。

教育長、我々は前から、私は宮﨑前教育長のときからもそうですが、この学校教育の中で何か関わりができないか。

それは、一つは難しい、この前、尾野先生の教育長のときに作った、ふるさと人物誌の学校版もありますが、生に、学校の教師が、特に新任教師あるいは赴任してきた教師の方々が、肩肘張らずに、自分が赴任してきたところの地域の歴史だとか観光地、食のところでもいいですが、奥さんと、あるいは旦那さんと子どもさんがいればと、楽しむ形で見ていく。そして、それを生徒たちに話す。「君たちのところはいいところだね。この前、あそこの神社に行った。お寺に行った。すごいな、いいところに君たちは住んでいるね」と、こういうふうな話を、その人、先生によって違うでしょうけど、話をする。そうすると、そう言われた子どもたちは、ほとんどうれしいと思います。帰って、「お父さん、お母さん、じいちゃん、ばあちゃん、先生が、こげな話をしなったよ」って。「僕たちが、私たちが住んでいるところは、なかなかええとこばい」ち、やっぱり褒められるとうれしいもんですから。そうすると、それがまた酒のさかなに。おじいちゃんが行ったところ、

お父さん、おばあちゃんたちの集まり。「こげな話があったげな」ち、「やっぱり私たちの地域は、郷土はええなあ」という話の中から、私が先ほど言うような、地域創生の心の在り方っていうのが出てくるんではないかと。お金を投じて、どうする、こうするばっかりじゃなくて、そういったところに、一つの地域の在り方というのが出てくる。

まさに、それはできるのは、担任の先生たちの力だというふうに思いますから。教育長、いかがですか。

**○議長（小島清人君）**　教育長。

**○教育長（早野展生君）**　まず、地域の歴史について。まず、学校の教員たちがどれほど、まずは知っているのかというところでございます。これにつきましては、以前から朝倉市では、初任者の先生方の研修の一環として、夏休みにこういった地域学習を、巡見と交えまして、丸々一日バスに乗って行くという研修会も行っております。

しかし、それだけでは十分ではないということでございます。やっぱり、学校の中で、どれだけ先生方が、その勤務する学校の地域のことをまず知っているかどうか、これはまだまだ十分ではない。

これについては、今日、蜷城の史跡マップというのをずっと見させていただいて、実は私も、こういったマップがそれぞれの地域にあるというのは知りませんでした。これも、例えば、校区の先生方は知ってあるかというところも疑問を感じるところもあります。

ですから、いろんなところですばらしい取組をしてある。これを、集約をしていかなきゃいけない。そして、体系化していかなきゃいけないというふうに考えておりまして。

まず、学校教育でこういった地域の学習を、先生方にどれだけ知っていただくか、また、勉強をしなくちゃいけないかというのを、一つまた勉強させていただきたいと思っております。以上です。

**○議長（小島清人君）**　16番実藤議員。

**○16番（実藤輝夫君）**　次に話をしようというところを、教育長が話をされましたんで。

市長、これはもう後ろに加藤議員がおられますけれども、今度、12月22日に蜷城でやりますが、ちょっと教育委員会の職員さんと表敬訪問しまして、蜷城コミュニティセンターに行きましたら、いろいろ資料を頂きました。

私も、今、教育長からもお話がありますように、この蜷城史跡マップというのを見せていただきまして、いつも出してくる観光課も教育委員会も、秋月があって、そして、その全体があって、そこに、ぽつんぽつん、朝倉町、杷木町の名所があって、そういうのがほとんどなんですね。しかし、これは地域の人たちが自分たちで、手作りでやったという話なんですよ。びっくりしまして。あんまり許可を得ていないんで、どうかなと思いましたけれども。

これは、一応、羽野局長から頂きましたもんですから、こういういいものは、ぜひ皆さん方に紹介して、特に行政と教育委員会がこれをやってくれるといいなと。また、ほかの

地区にもこういう史跡マップというのがあるのかもしれません。私もたまたまこういうのがあったらいいなと。私の先ほどの郷土史講座も、私はしゃべっておりますし、教育委員会からも話はしますが、現物としてこういうのが出てきて、しかも、手作りでやられて。しかも、中心的には地区の予算で、行政の市の補助金を頂きながらやったという。詳しい話は私もよく存じていませんけれども、そういうことです。

こういうのも、行政のほうも推進していくと。今、教育長もこういうのがあれば、学校教育の中でもできると。聞こうと思いましたけど、先に答えられましたんで、もうそれを了としながら。

市長、これは、行政の中でのやり方として非常にいいものだというふうに思いますが、いかがでしょうか。

**○議長（小島清人君）**　市長。

**○市長（林　裕二君）**　蜷城の史跡マップは、実は今、議員がお示しになられた、その土台になるものを、実は、私はもらっていまして、蜷城コミュニティから。そして、いつか地元の議員さんあたりに案内してもらって行こうかと、行き合わせていません。

それと、私は朝倉町の古毛、古毛でも久重というところに住んでおりまして、そこはやっぱり、学校の先生をしておられた山﨑さんって、もう故人です。長太郎さんが、やっぱりいろいろ調べて。マップまでは行きませんけれども、書き残されたものがあります。うち辺りの、集落の辺りも克明で、こういうふうな昔の屋号が残っていますので、そういったものを作られておられると。ほかの地域も恐らくあるだろうというふうに思っております。非常に有意義なことだというふうに思います。

**○議長（小島清人君）**　16番実藤議員。

**○16番（実藤輝夫君）**　失礼ながら、すばらしいものだと思いながら、これは蜷城方式と私は呼んでおりますけれども。

やはり地域の人が、蜷城というところは、豊原徳先生というすばらしい人もおりましたし、今度亡くなった、誰だっけ……。（「内藤」と呼ぶ者あり）内藤宮司。すばらしい人だったんですけれど、残念ながら亡くなられましたんで。これを中心的に作ってきたと。

地域地域によって、私が言いたいのは、これ蜷城、こういうやり方をされているということを参考にしながらですね。知らないところもあるし、もう既にやっているところもあるかもしれませんけれども。朝倉市全体の地区の創生のためにも、こういうものがあるんだと。しかも、これはふるさと人物誌には書けないような、いっぱいすばらしい偉人が載せられています。

こういう掘り起こしを地域の中でやっていかれたらと思いますが、ぜひ行政も踏まえて、何か財政課がコミュニティとの関係を持っているそうですので、そういったところでですね。これは、やろうという地区の意欲もないと、なかなかこっちから強制して「やれ」っていうわけにもいけませんので。もしも、そういう方がおられましたら、地区があれば、

ぜひとも市とタイアップしながらやられていくべきであろうというふうに思います。

これは部数に限界がありましたんで、事務局のほうに頼んでコピーしておりますので、これを欲しいという方がありましたら事務局のほうに申し出ていただければ。議長だけにはお渡ししておりますけれども、そういうことですので。これがもうなくなってしまっているような状態だということで、逆に言えばすごいなと。また新しく作っていこうという話も聞いておりますので、ぜひ。これは、市長が言われたように、いろんなところにいろんなものがあると、私が知らないようなものもたくさんあると思うので、ぜひお願いしたいと思います。

それと、せっかく議会のほうも、議員も一生懸命、第１回目は地元の議員さんにもお世話になりました。北川議員が、また地元でもいろいろやってくれました。２回目は、堀尾議員も秋月のほう。３回目は、今度は加藤議員が積極的に今、やっていただいております。それぞれのところの関係する議員の方々が、この郷土史講座を含めて地域の歴史の掘り起こしに関わっていただいておりますので。

そういった面で、行政のほうも、やっぱり、まずは知るべきではないかと。失礼ながら、私が関係した人たちとの話の中では、まだ初歩的なことも知らない人もおりますし、まあまあ知っていても中身を知らないという人もおります。

これは、歴史を学ぶ。歴史をっていうときには、皆さん御承知のとおり、いつ、どこで、誰が、何をしたかって、これを知ること。受験勉強はこういったことをやるわけですが。

それにもう一つ。その歴史から、歴史に何を学ぶかってということを。だから、「上杉鷹山は知っている。名前はやっと分かった、関係も分かった、じゃあ」だけじゃなくて、特に「長」という名前がつく方々が、なぜ上杉鷹山が、そして、後の２人が名君と呼ばれるかということを、やっぱり知っていくということ。

そして、大事なことは、もう一つなんですけれども、この鷹山には細井平洲というすばらしい師匠がおります。この人がいろんな本を書いていますけれども、西郷隆盛あるいは松下村塾の吉田松陰等にも影響を与えておりまして。これが、「嚶鳴館遺草」という本は、ずーっと続いておりまして。

こういったものも含めて、何をやったかということまで理解し、そして、皆さん方は行政権を持っているわけですから、それをいかに実施していくか。ここまでいかないと。そのときに初めて、改革の市長以下スタッフが、市長の下に就くスタッフがどう動いていくのか。そして、それを支えていくのが市民であります。

先ほど私が申しましたように、やっぱり鷹山のすばらしさがなぜケネディに伝わったかというのは、藩民、「愛民思想」という形でいきますけど、民を富ませることが藩主の仕事である。そして、これは先ほど申しましたけれども、伝国の辞で、次の藩主であります治広に伝わってきた、「藩は、藩主のために存するものではなく、藩民のためにあるんだ。藩民があってこそ藩は存立する」と。この思想は、社会福祉にも関係しております。時間

の関係でこれ以上長くやるのもですけれども。

副市長、市のほうは、こういうふうな形でやろうとして、側面から協力をしてもらっておるんですが、総務部長も含めて。一緒に、やはり、まずは知ることから。議会と行政が別々っていう必要もありませんので、情報、知識を共有することが非常に大事なことだと思いますので、時間的な余裕をつくりながら、共同で勉強会をするっていうのはいかがでしょうか。

**○議長（小島清人君）**　副市長。

**○副市長（佐々木哲治君）**　先ほど来から出ております、歴史に学ぶといったところがありまして。すみません、お預かりしております本をまだ読み切っておりませんが、しっかりそういった勉強もさせていただきたいと思っておりますし、先ほどの蜷城のマップですね、あれ、歴史だけではなくて、いろんな地域の記念碑とかそういったものも載っております。ああいったのも非常によろしいんじゃないかなと思っておりまして、そういった勉強は、私たちもぜひさせていただきたいというふうに思っております。

**○議長（小島清人君）**　16番実藤議員。

**○16番（実藤輝夫君）**　「議員と一緒にやる」と回答がありませんでしたけど、いかがですか。

**○議長（小島清人君）**　副市長。

**○副市長（佐々木哲治君）**　はい、少なからずやらせていただきます。

**○議長（小島清人君）**　16番実藤議員。

**○16番（実藤輝夫君）**　その言葉を聞いて安心しました。一緒に盛り上げていきましょう。これはもう、行政は行政、議会は議会という話じゃないと思いますね。やはり、みんなが一緒になって地域の浮揚、創生を図っていく。みんなが一緒にやっていく。特に市長が言うオール朝倉というのはそういう意味でも、復旧復興だけではなくて、地域創生にも一緒だというふうな考え方を持っておりまして、上杉鷹山を中心にして、今、話をさせていただいております。

時間の関係上、「観光」というふうに書いております。これは、私は昔から歴史観光回廊というふうにして提案していまして、市長は水の回廊というふうに言われていますが。

歴史あるところには必ず観光というものがついてきます。そして、そこには物産というものも。そういう連携的なものとして観光の在り方もいっぱいありまして、今日のテーマではないんですが。歴史的なものを掘り起こすことによって、観光というものも、これは人を呼ぶ一つの大きな力にもなっていく。１か所だけではなくて、連携して、Ａ地点、Ｂ地点というのに、いつも紹介しているけど、そこで受皿がなかなかできていないというところがあると思います。

今日はもう、観光の問題はこの流れの中での話ですので、次に進みたいと思いますが。

３番目に出しております、教育です。教育長も含めて、昨日からずっといろんな話がや

り取りされておりますけれども。

今、朝倉市の中学生、小学生が何か特徴のあるものはないのか。学校教育の中で。私は、英語教育は一つの大きな売りだと。これはスピーチコンテスト、宮﨑前教育長のときからお呼びいただいて、もう何回も学校で、早野教育長とは２回、会いまして。私も楽しみながら行かせていただいております。

市長、いいですか。中学生のスピーチコンテストっていうのを御存じですか。そして、また、これに興味はないですかね。本当にすばらしい子どもたちが、すばらしい英語スピーチがあります。お考えを。

**○議長（小島清人君）**　市長。

**○市長（林　裕二君）**　直接、朝倉市で行われました英語スピーチコンテスト、中学生の。ちょっと、私は体験していません。

ただし、高校生のイングリッシュスピーチコンテスト、これは非常に関心が強かったからですね、私は何回も視聴させてくださいと言って、聞いています。非常にいいと思います。

それが、今は中学生、小学生から英語の時代でもあるし、特にその時代から英語を、それも書いたり読んだりとかじゃなくて、ヒアリングもそうですけれども、ヒアリングの基になった、今度は発表ですね、スピーチ。これも非常に有意義なことであるというふうに思います。

**○議長（小島清人君）**　16番実藤議員。

**○16番（実藤輝夫君）**　それは私の夢の一つなんですけれども、この跡地、これが建て替えられないということであれば、この旧になりますけれども、現庁舎の中に、移転した後に、英語教育アカデミー、イングリッシュアカデミーというような形で、そこに行けば、いろんな英語が学べる。幼児からお年寄りまで。海外旅行あるいは留学。その他いろいろな面をそこで満たし得る英語教育の場があったらいいなと。ここには朝高がすぐそばですし、甘中もそこにありますし、東高、光陽高校、それで各６校の中学校もあります。先ほど市長も言われたように、小学校のときから。今は、アニメとかを通じて、幼児の中でも英語をやる人たちがおります。

将来の夢に向かって、あそこに、朝倉市のあそこに行けば、将来的な英語が身について、どっかすばらしいものに。もちろん高校受験、大学受験もさることながら、私もあちらこちら行っておりまして、留学もしましたけれども。やはり、そういった夢をですね。そしてまた、今、楽天を中心として一流企業の幹部たちは英語を使う。そういう時代に来とるんです。

これが一つ、そういった拠点ができれば、高校、大学の英語クラブとか、その他、それから会社の合宿とか、原鶴を中心として提携ができる。いろんな発想が出てくる。ただ単なる拠点に何かを造るんじゃなくて、それから派生してくるものが、非常に大きなものが

できてくるんではないかと。

よく日本一という言葉は使われますけど、その日本一という形は一つの夢でありまして。何かそういった学校教育、社会教育の中に夢がある。今は、そういうのができて、手軽に、身近に行けたら、もう本当、いろんな人が来るでしょう。

私もカナダのＵＢＣっていうところに留学して、そのときに大学に入る前に、いろいろ英会話の勉強やらするわけです。発音なんていうのは、「ｐｒｏｎｕｎｃｉａｔｉｏｎ」っていう英語で使うんですが、これなんかもう専門的にやらないと、日本の英語教育では、とてもとてもリスニングはできません。

そういったところを、どういうものが外国の中でやられているかというのをそこで、学校教育にはやっぱり限界がある。その面では。そういう面で、そういったものをつくり上げていくというのができたらいいなと。

人材というか人脈も、今日は、多くは述べません。教育委員会のほうには少し話をしたことがあるんですが。夜須出身の、今、一橋大学の国際関係の教授をしているのが、朝倉出身でおります。今、オックスフォードからハーバードの客員教授で行っておりますが、「いつでもお役に立てるならば」と言っておりますので、そういった人脈を生かすということもまた大きな問題で。今、朝高が留学制度が非常にないという話もこの前、教育主事からも聞きました。

そういったものを、何かこう縮まってくる教育界の在り方で、一般的には、昨日からの答弁にもありますように立派なものをされているけど、「これは」って、「朝倉市、教育、英語だ」っていうような話に、これは英語に限らず何でもいいんですけど。私は、もうそれが一番実用的であるし、ちっちゃい子どもから大人まで、学生はもちろんのこと、望むようなものではないかなと思っています。

もしも、建物を造るというようなことであれば、それも一考していただきたいなと思っております。絶対に役立つ。こういったものを教育だけではなく、先ほど言いましたように、原鶴温泉その他、地域観光も含めて、何かこう、広がりのあるものを考えて。私は最初、締結するだけで、後は専門的な人がいろいろ加味してくれると思いますので。一応、事業にまで広げていく方法はないのかなというような気がいたします。

市長、これを聞いてどういうふうにお考えでしょうか。

**○議長（小島清人君）**　市長。

**○市長（林　裕二君）**　お話を聞いていまして、別府にできました立命館の大学ですね。あそこはもう、学生も各国から来てあると。そして、内容も今おっしゃるように、英語だけの授業を当然やっていますし、そして観光に、非常に人材を輩出をするようなこともやられているということを、まずお聞きしました。

イングリッシュアカデミーということかなというふうに今、お聞きしたんですけれども、私もぜひやりたいというふうに思います。

ただ、これはやっぱり建設コストそれから維持コストですね。これをやっぱり考えなくちゃいけないということだと思います。

**○議長（小島清人君）**　16番実藤議員。

**○16番（実藤輝夫君）**　総論としては、前向きなお考えで。私も、そこの大分の、別府のあそこに行きました。実際、教授ともお話をしてきました。ここの職員の娘さんが今、行っておりまして、非常に身近なところになってくるんじゃないかなと思います。

だから、広げていけば夢は広がっていく。「朝倉市はそういうところだ」と。建物もそれだけを造れという話じゃなくて、何かするときにはいろんな需要があると思いますので。それと総合的なもので。

私なんか、これがそのまま残れば、ここはシアターにこの議場をして、そして、ここでコンサートを開いたり、練習したり、あるいは英語の映画があったりとかいうのが、この施設でできるんじゃないかなっちいうような夢を描いておりましたけど、解体ということになりましたんで、それも消えました。いろいろなる需要が、今度、個人的に話すことがありましたら、やっていきたいと思っていますけど。

今、市長、もう一回、副市長その他、財政等も含めて、先ほど財政の見通しというような形を最初に出したのは、そういったものが出てくると、必ず金、金、金と。

それでも、上杉鷹山は、節約。これが一番最初でした。しかし、楮とか先ほど言ったような殖産興業に必要なときの金は出しているんですよ。だから、必要なものに対しては出す。無駄なものは省く。まさにこのやり方こそ、ぜひぜひ。

今、昭和58年財政再建をしたときの私も議員の一人ですけど、あの頃とは全く状況は違います。財政状況も違います。詳しい話はいつでもします。その中のまっただ中におりましたんで。

だから、今はチャンスだと。この言葉は最近使われていますけど、ぜひ一考していただきたい。できる、できんはまた別です。しかし、一つの夢を持って、この建設っていうか、今後の在り方をしていく一材料にしていただけたら。私が言うと、あれから言われたから、何かそれをっちいうふうなことかもしれませんけど。

市長が議員や市民に頼んだり、そういうことは決しておかしいことではありませんので。教育長もそうです。尾野先生から、私、頼まれて、頭を下げて頼まれて。あるいは塚本倉人さん、元市長。息子さんの勝人さんからも頼まれて。お互い、皆さんもそうだと思うんですね。

だから、高校生の提言は取り入れるけど、議員の提言を取り入れると、沽券に関わるとか、そんなことはないんじゃないかと思いますので。いいものは、ぜひ皆さんと共有しながらやっていくべきだと思います。

また、私の一つの提案ですけども、やっぱりいいものがまた、ほかの議員さんからも、あるいは職員の方からも、市民からも出てくると思いますので。何か一つ夢のある、どう

せつくるなら今でしょうというときに、この丸山公園とも一体化しておりますので、ここも含めて。具体的な話は、これ以上はしませんけれども、今後の課題だということで置いておきます。

しかし、ぜひ一考に値するんじゃないかなと思いますけど、教育長どうですか、簡単でもいいですけど。

**○議長（小島清人君）**　教育長。

**○教育長（早野展生君）**　今、議員が本当、以前から考えていらっしゃったお考えをお聞きして、本当に勉強させていただきました。

英語教育に関して申し上げますけれども、英語教育は朝倉市にとっても、以前から課題でございます。本年度から３年間、新朝倉の教育と称しまして、４つのプロジェクトを計画していると。その中の１つに、英語力の向上というのを項目、プロジェクトを挙げております。４番目でございますが、挙げております。

具体的には、ここでは申し上げませんけれども、やはり子どもたちの英語力をつけていくこと。これは社会に貢献する上で前提となる、英語を学ぶ、知っていることというのは、もう最低限の条件になってくるんじゃないかという仮定の下、こういった英語力の向上というのを、今年から３年間やっていければということで、これは教育委員会の考えでプロジェクトを。実は、これ、一つ一つ具体的に考えているところはございますけれども、そういうのはございますので。

議員の皆様方が御提案いただいている内容につきましても、いろいろまた御協力させていただきたいというふうに考えているところでございます。以上です。

**○議長（小島清人君）**　16番実藤議員。

**○16番（実藤輝夫君）**　教育長の力強い前向きの、今現在やっている将来的な話も聞きました。本当に心強いと思います。ぜひぜひ。

議員の皆さん全員にも案内があっておりますので、今年は10月でしたか、11月、終わりましたけれども。来年また御案内があると思うんで、御興味のある方は、ぜひ。

あの中学生、１年生からですよ。もう、すばらしい発音でやっている。そこに来るまでには、いろんな人たちの選考されてきているんで。あの英語を聞くと、いやあ、甘木、朝倉市の英語も捨てたもんじゃないなというような気がいたします。

言い忘れましたけど、前々から言っております、この郷土史講座を通じてやっている中で、ふるさと人物誌を、甘木、朝倉、杷木の一体化という形での作り方をしています。

これ、今、先ほど、このようなものもありますが、その中でも出てきたのが、郷土の歴史をやろうじゃないかっていうのが、そのときにも出てきました。ただし、やっぱり郷土史よりも、そこに住んでいた偉大なる人たちを出そうというような形で、人物誌っていう形ができました。

私は、市史編纂がそれぞれの町村、町史、村史という形でされていますけれども、手軽

に市民が、この中で甘木市史とかを読んだことがありますか、こんな上と下で。部分部分は、教育委員会はあると思うんだけど、もちろん。ほかの人どうですか。自分のところの町史、市史を読んだことはありますか。あれね、700ページぐらいあります、上だけで。甘木市史は。これ２冊、とんでもない。こんなものは普通、一般市民は読めません。

だから、身近に、ふるさと人物誌も作ったことは作ったんだけど、あんまり活用されていない。実際上。これはもったいないと思う、あんな立派なものを。先ほど山﨑長太郎先生の話が出ましたけど、あの人も優秀なすばらしいメンバーでした。その中の一人でしたけど。ああいうのをですね。それから、また次の世代がおりますので、これ、財産だと思いますよ。

教育委員会からも輩出してもらわないかんし、行政も、そして一般の歴史家も含めて、こういう人たちを集めて、そういう郷土史の在り方、作り方、そういったものを検討するっていうのは必要じゃないかと思います。

これは、そのとき、ふるさと人物誌を作るときも、市長の提案という形で人を集めました。その先生たちを。また、教育委員会、尾野先生からも頼まれて、「人材は教育委員会のほうからやりますから」ということで、人材が集まりました。

そういった面で、その人たちに今、これから先の朝倉市の地域創生の一つとして、歴史的な掘り起こしということを考えるならば、歴史に限らず、その地域地域の郷土の歴史というものをやって、身近に市民が読めるようなものを作ったらどうかなというふうに思っております。

一件一件にやるというのは、ちょっと先ほどから、また金がかかりますので。せめて、必要な人と地域のところに、すぐ読める、何十ページかで終わるものを作ったらどうかと思いますけど、市長いかがですか。

**○議長（小島清人君）**　市長。

**○市長（林　裕二君）**　分厚い本は、部分的に必要なとき読んでいますけれども、通しでは読んでいません。

おっしゃるように、なかなか郷土の歴史というのは大事ですけれども、そういうことですので、分かりやすい、字が大きくて、写真があって、そんな厚くないというのはいいんだろうというふうに思います。

**○議長（小島清人君）**　16番実藤議員。

**○16番（実藤輝夫君）**　ぜひ、人材はそろいますから。朝倉市にはそういった関係者がおりますので、それはそんなにお金がかかるわけではありませんから。金は大丈夫ですので、皆さんの心意気で集まって来る。必要な経費は要りますけれども、そんなに。私の郷土史講座なんか数千円ですよ。チラシ代とプラスアルファ。教育委員会に言ったら「予算がない」と言うから。そうしたら、自分たちで手作りで郷土史講座をやっていこうっちゅう話をしまして、もうボランティアみたいな形でやっていて。

本当にやろうとすれば、お金を前提にせずにやることを前提にすれば、これは必ずできる。人の心意気を信じながらやっていけば、知恵も出てくる。そして、必要に応じて、やっと金を出すか、出さんかっていう話になると。金がないからどうする、こうするいうのは、それは後の話であって。

ぜひぜひ、私、そういつまでもこの立場に立つかどうかは分かりませんから。「老兵は死なず、ただ消え去るのみ」というマッカーサーの言葉もありますが。私がここにおられる限りにおいてはそういった、今日も提案を幾つかしておりますが、全力を挙げてお役に立てればというふうに思っています。

そういった人たちは必ず出てきます。それは市長が委嘱しないと、なかなか、すっと来らない。私たちの力では駄目です。何をするかではなくて、誰がするかっていうことを鷹山のところにも書いてありますが。市長、ぜひ人材、郷土史のやり方ですね。集めて。スタッフはおりますから。

その当時、ふるさと人物誌は、井上部長がまだ企画課長か何かのときにやって、平井課長が当時、広報担当でやっているんですね。だから、それはみんな市長が命じて「やってくれ」っていう話で、そして、それをずーっと人材を集めて、市長は一番上におるという形で、ほとんどタッチはされませんけれども、そこで任せて人物誌ができたと。郷土史も同じような形でできるというふうに思っていますので。

これは絶対に作るべきだと。それは５年先、10年先、20年先に、ずーっと残っていきます。身近に読めるような本ですから。だから、ぜひぜひこれは、市長、指示をお願いしておきます。お答えを。

**○議長（小島清人君）**　市長。

**○市長（林　裕二君）**　教育委員会の皆さん方の意見も聞きながら、前を向いてやっていきたいというふうに思います。

**○議長（小島清人君）**　16番実藤議員。

**○16番（実藤輝夫君）**　今日は前向きな答弁がありますけれども、やっぱり、「なせば成る、なさねば成らぬ何事も。成らぬは人のなさぬなりけり」というこれを、心に決めましてやっていかないかん。

もう一つの言葉は、時間があんまりありませんけれども。もう一つ鷹山のところで出てくるのは、「してみせて、言って聞かせて、させてみる」という言葉があります。これは、私は山本五十六のときにこの言葉を覚えたんですが、そのときは、「やってみせ、言って聞かせて、させてみて、褒めてやらねば人は動かじ」というような山本五十六で覚えておりましたけれども。そういったことを、ぜひやっていただきたい。

本当に拙い私の提案でありますけれども、真摯に市長も教育長も受け止めていただいておりますので、感謝しながら、最後の、簡単ですけど、福祉についてお話をさせていただきたいと思います。

先ほど、４番目に述べました愛民思想という中で、本当にその当時、江戸の中期においては画期的な封建社会の中で、年寄りの敬老あるいは間引きの禁止、そして、身障者への労わり、それから、扶助米の支給。こういったことを、この三名君は全部やっています。

これは、やっぱり今、人口減少の中で、これ、岡山県の奈義町の資料を取り寄せました。恐るべき、一時、出生率が2.95。もう信じられない数字です。今も2.21ぐらいはあります。なぜかと。昨日も含めて、子ども未来課と検討をしたわけですけど、時間がありませんので、今日はこういうものがあると。

岡山県の奈義町です。小さな町と言ってしまえばそれまでですが、やるかやらないかですよ。やっぱり、人口減少の今、全国の市町村がそれをやっているわけですけれども、特徴のある、やっぱり人が、若い人たちも含めて、ここで、朝倉市に来て子育てをしたいというような施策も幾つもあります。

こういう資料がありますので、興味のある方は、子ども未来課に行けば、この奈義町、大刀洗町の資料も取り寄せています。今日はこれが主体ではありませんので、こういうものは、鷹山公を含めて三名君の話である。

やはり、先ほどから、一番最初から言っていますように、歴史を知ることは非常に重要です。しかし、歴史それだけではなくて、歴史から何を学ぶか、歴史に学ぶものは。そして、それを実行できる人。それはしなければならない。実行していかなければならない。

細井平洲の話をしましたが、細井平洲は、「世に役立たない学問は学問にあらず」というようなことを言っております。すばらしい先生でありましたけれども、米沢に行けばちゃんとありますので、そこに行かれたらいいと思いますけれども。

福祉関係も含めて、ぜひこの朝倉市で子どもを産み、そして、子育てが十分でき、そして、社会増も今、少し増えているそうですけれども、この分析をしながら、どういう点で増えて、どういうところに問題があるかということを検証しながら、朝倉市の創生のために頑張っていただきたい。私も微力ながら、今後頑張っていきたいと思います。

時間ももう僅かでございますので、これ以上申し上げませんが、どうぞよろしくお願いします。今日はありがとうございました。終わります。

**○議長（小島清人君）**　16番実藤輝夫議員の質問は終わりました。

暫時休憩いたします。午前11時15分に再開いたします。

午前11時１分休憩